

一国の良心を育む

北京大学学生代表

見学日時：2015年11月26日（木） 9:30-16:00

見学場所：同志社大学

見学概要

11月26日朝9時30分、第17回「走近日企・感受日本」中国大学生訪日団は同志社大学の今出川キャンパスに到着し、6時間半におよぶ交流が始まった。

まず始めに、良心館において同志社大学側からの歓迎のあいさつと同大学の歴史および現状についての紹介があり、その後討論のコーナーとなった。中国と日本の学生がランダムにAからGまでの7つのグループに分けられ、グループごとに中日文化関連のいくつかのテーマについて討論を行い、5分間の発表としてまとめた。皆は積極的に討論をし、演劇やPPT、そして中日両国語解説などの形で独創的な発表を行った。



中国と日本の学生のグループ内討論の様子

発表の後、双方の学生は寧静館で昼食を共にした。また丁度同志社大学の学園祭が行われていたこともあり、訪日団メンバーは同志社大学の学生の引率の下、学園祭の見学をし、日本のキャンパス文化について理解を深めることができた。

知っていますか？

問:同志社大学と中国の大学には主にどのような体制上の違いがあるのか？

答:同志社大学は私立大学であると同時に日本の一流大学でもある。中国にも民間が設立した学校はあるものの、それは一般的には本科第三群であり、知名度や実力などは中国の公立大学にはおよばない。

同志社大学創立者新島襄は1888年11月に「官立の大学は価値のあるものであるが、私立大学も同様に社会に

において重要な役割を果たしていることは疑う余地もない。生徒の個性を伸ばすことで自治自立した人民を養成することは、私立大学の持つ特色と長所であると信じている」と述べている。

同志社大学には基督教のバックグラウンドがあるが、こうした大学は中国では非常に稀である。しかし伝道式の大学とは違い、同志社大学は基督教の伝道を目的とはしていない(教育自体を伝道的手段とはしていない)キリスト教主義の大学である。新島襄は「神を信じ、真理を愛し、他者に対する思いやりの情に厚い基督教に基づく徳育」こそが、知識教育に偏ることのない全人教育には必要であると考え、基督教を徳育の基本とした。

問:同志社大学「学園祭」はどういったものか?

答:今回今出川キャンパスにおいて「同志社EVE」学園祭を見学した。キャンパス内には様々な露店が並び、それらは学生自らが運営している。中国でもよく見かけるサークル活動以外にも、お化け屋敷や野外でのロックフェスティバル、スクールアイドルによるパフォーマンスなどがあり、ひいては中国でもほとんど見かけない餃子研究会やラーメン研究会も見かけた。



訪日団全メンバーと同志社大学の皆さんとの記念撮影

感想

日本の大学生たちは、全体的に中国の大学生よりも自発的で親切だが礼儀もある。こうした点は私たちも学ぶべきだと思った。これまでの中国への印象がどうであれ、彼らは皆中国に興味を持ち、とても積極的に交流をしてきた。日本の大学生はその多くが学業の傍らアルバイトをしており、生活費の一部を賄っているが、中国ではそうした状況は少ない。これについては、中国の学生の学業負担による課外時間の少なさ、そして社会的風潮の影響もある。恋愛問題については、日本の学生はより開放的で、特に女性は恋愛において独立しており父母の干渉も比較的少ない。全体的に言って日本の大学生はより自主的で、生活もより多彩である。

同志社大学創業者新島襄は、「一つの国を維持するのは決して二・三人の英雄の力ではなく、一国を形作る教育があり、知識があり、品性の高い人々の力によらなければならない。こういう人々が『一国の良心』と言うべき人たちであり、こういった人材を養成していきたい」と述べている。

「一国の良心」、これは同志社大学の創立目的および教育理念であり、また中国と日本の大学生の精神的追求とも言えるものである。